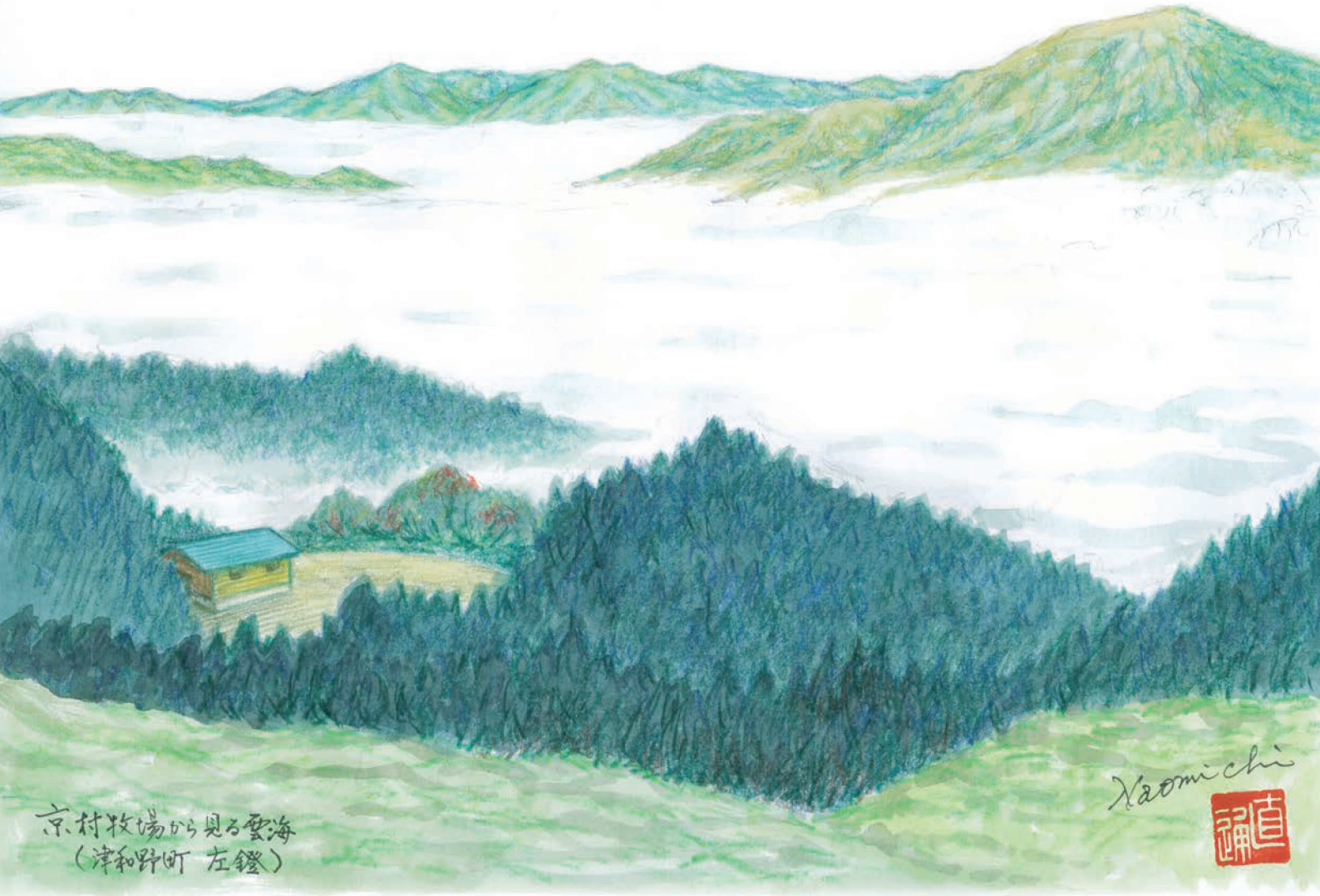


2020  
**1**  
 January Vol.46

# JAしまねびより

◀ **今月の特集** 島根のいいもの再発見!! 「益田市 スイセン」 西いわみ地区本部



京村牧場から見る雲海  
 (津和野町 左鏝)

Naomichi  


# 謹賀新年

初春の  
お慶びを  
申し上げます

代表理事組合長 石川 寿樹

代表理事副組合長 山根 盛治

代表理事専務 高木 賢一

代表 監事 名原 佳宏

役職員一同



代表理事組合長  
石川 寿樹

新年あけましておめでとうございます。  
組合員の皆様には、健やかに新年をお迎  
えのこととお慶び申し上げます。

今年も無事に新年を迎えられましたの  
も、組合員の皆様をはじめ、地域の皆様  
のご理解とご協力の賜物と心から感謝申し上  
げます。

昨年は元号が令和に改まり、新しい時代  
の幕開けとなりました。令和2年がJAし  
まねにとって飛躍の年となりますよう役職  
員一同、励んで参りたいと存じます。

また、昨年は全国各地で台風や豪雨など  
多くの自然災害が発生し農産物や農業施設  
等に甚大な被害が発生いたしました。被災  
された皆さまに心よりお見舞い申し上げます  
とともに、本年は災害のない穏やかな年  
になりますことを願っております。

さて、JAしまねは本年3月で統合5周  
年を迎えます。統合効果を更に実感あるも  
のとし、組合員の皆様に見ええる形で還  
元していくため、自己改革と事業改革を車  
の両輪として位置づけ、スピード感を持つ

て取り組んでいかなければなりません。

自己改革においては、「農業者の所得増  
大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の  
3本柱を掲げて取り組んで参りました。  
昨年6月には、島根県と「包括業務提携  
に関する協定」及び「島根県農業産出額  
100億円増の早期達成に向けた共同宣  
言」を締結いたしました。JAしまねにお  
いても「第2次農業戦略実践3カ年営農計  
画」のもと、農畜産物販売高を39億円増や  
し、416億円とする目標を掲げておりま  
す。統合したことによるスケールメリット  
を活かし、営農指導の強化や生産資材価格  
の低減、また、U・Iターン者の新規就農  
支援や生産拡大を図る農業者のためのリー  
ス事業の展開など、目標達成に向けて組合  
員の皆様と共に取り組んでいく所存です。

これらを実現するためには、支援できる  
経営の健全性確保に向けた取り組みが求め  
られますが、日銀のマイナス金利政策や少  
子高齢化等により信用・共済事業の収益減  
少が避けられない状況にあります。このた  
め、JAしまねの収支構造の迅速かつ抜本  
的な改革を実施する必要性に迫られており、  
本店・地区本部一体となった組織再編が必  
要であります。

まず一つ目は、信用事業のあり方の見直  
しを図ります。本年2月末をもって各地区

本部の金融・共済部署を発展的解消し、本  
店と地区本部の重複業務を本店に集約する  
ことで機構、人員を見直し、信用事業のス  
リム化・効率化を進めていきます。

また、金融店舗、ATM等については、  
地域の生活基盤としての役割・利便性を確  
保しつつ、採算性や効率性を十分検討し、  
施設の集約や再配置、広域利用、運営方法  
の見直しも平行して進めていきます。

二つ目の重要課題は営農経済事業改革で  
あります。昨年より、経営基盤強化支援と  
して、全農、農林中金、三菱総研にコンサ  
ルトメントに入っていたいただいており、営農経  
済事業の収支改善に向けた取り組みを進め  
ております。

大変厳しい経営環境の中ではあります  
が、今後も組合員、地域の皆様から、「信  
頼され、選ばれ、必要としていただけるJ  
A」を目指し、役職員一丸となって改革を  
推し進めて参ります。組合員の皆様におか  
れまして、ご理解とご協力を賜りますよ  
うお願いいたします。

結びに、組合員、地域の皆様にとりまし  
て、本年が実り多く、健康で明るい年とな  
りますようお願い申し上げます。年頭の挨拶と  
させていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

島根には誇れる農産品がたーっさん!

# 島根のいいもの 再発見!!

直撃・生産者インタビュー

## 益田市 スイセン

1月は、西いわみ地区本部。益田市でスイセン作りに取り組む両見勝さんにお話を伺ってきました。



### 昔から身近にあった スイセン

スイセン栽培が盛んな益田市鎌手地区。スイセンは今や益田市の花として有名ですが、このあたりでは昔からあらゆる場所で自然に咲いていたそうです。両見さんが幼い頃は、自生していたスイセンを摘み取り、最寄り駅に持っていくと業者の人が汽車で広島の花市場まで届けてくれるような「お小遣い稼ぎ」の仕事がありましたのだとか。その後、両見さんは郵便局員として働きながら米や麦を作る兼業農家をしていましたが、1970年代から始まった国の減反政策で稲作を少なくすることを余儀なくされま



お話をお伺いした両見勝さん。

した。また、畑では葉タバコを作る農家もありましたがそれも減少していき、皆が試行錯誤しながら生活する時代を送っていました。そんな時、隣の三隅町（現・浜田市）に火力発電所が建設されることになり、その予定地の用地買収が始まる前にお願いで、自生していたたくさんのスイセンの球根を掘らせてもらいました。1983年頃からそれらを休耕田に植え、商品用のスイセン栽培を本格的にスタートさせました。



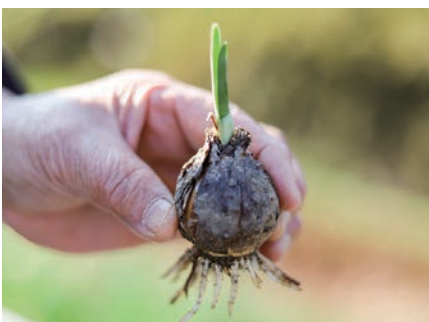
整列して植えられたスイセン畑。

### 手探りで始めた スイセン栽培

スイセン栽培を始めた頃、何軒かの農家が集まり「鎌手

水仙部会」を結成。当時はその中で一番若かったという両見さん。栽培方法もよくわからず、ただひたむきに球根を植えていきました。最初はひとつずつ球根を植え、それが5、6年経つと繁殖しどれも皆きれいな花を咲かせるような球根に育っていきます。この作業を何年も繰り返し、球根は増え続け、今では複数の畑を所有するまでに広がりました。時には国内でも有名なスイセンの産地である福井県越前町や兵庫県の淡路島などへ視察に出かけ、栽培方法について学びました。

スイセンは他の花に比べると作りやすく、特に肥料などを必要とすることなくきれいな花を咲かせます。また、他の農作物に比べ機械は要らず、一年を通して草刈機が



スイセンの球根。自然に分球し、繁殖していく。





長いスイセンが良いとされるため、周りの雑草を支えとして利用する。そのため、わざと草刈りをしないそう。

あれば十分なのでコストを抑えながら栽培することが可能です。しかしここ最近では気候の変化のせいか「なかなか思うような花が咲かなくなってきた」と語る両見さん。それでも水仙部会の中で色々な情報をやり取りし、良さそうな肥料や植え付け方法を少しずつ試しながら現在も栽培に取り組んでいます。

### いちばん寒い時期が 出荷のピーク

通常スイセンは、4月頃に葉っぱがすべて枯れ、しばらく過ぎた6月から球根を掘り起こします。その後、それらの球根を干しておき、9月頃に定植していきます。例年11月の半ばから花が咲き始め、12月には出荷の時期を迎えます。出荷する際にいちばん条

件の良い状態は、「葉っぱが4枚、花が4つ」ついでいて、さらに「はかま」と呼ばれる球根の上にある白い筒状の部分の長さで優劣が決まるため、これを一本ずつ丁寧に分けていくのにとっても労力がかかります。また、スイセンの出荷ピークは一年で最も寒い時期。基本的に露地栽培なので、天気が悪い日の切り取り作業は非常に大変です。それでも出荷日は決まっているので、雨や雪が降ったり冷たい風が吹く中でも作業を行わなければなりません。



根元近くの「はかま」と呼ばれる部分。

### スイセンが 地域を元気にする

毎年、鎌手小学校では「スイセン学習」と題し3年生の

児童が両見さんの畑で作業を行います。児童たちは、球根掘りから定植、そして花の切り取りと一年を通してスイセンの成長を学ぶことができます。この校外学習は都会地など他の地域ではなかなかできない貴重な体験であり、約20年前からずっと続く鎌手の大切な行事となっています。併せて年末には、萩・石見空港で羽田からの搭乗者にスイセンの花束を手渡すキャンペーンも行われています。鎌手の子どもたちにとっては、スイセンはいちばん身近な花であり、この地域を知り、PRするための大切な存在となっています。両見さんもこのスイセン学習を通して育まれる地域の子どもたちとの繋がりを大切にしています。

### 次の世代の人にも 届けたい

こうして、地域を元気にし交流の場を提供してくれるスイセンですが、年齢を重ねていくうちに畑での作業が体力的にきつくなってきたという両見さん。最近、葉が枯れた後の球根をそのまま据え置き栽培し、主に切り取り作業に専念しているそうです。水仙部会のメンバーも皆ほとんど高齢になってきています

が、次の世代を担う若手の後継者がなかなかいないのが現状。昨今、ど

この農家でも抱えている課題ではありますが、両見さんは毎年楽しみにしている人たちのためにも、この美しいスイセンを次世代に繋いでいきたいと願っています。



週3回の集荷日に合わせて切り取り作業を行う。

### スイセン 一口メモ

さわやかで柔らかな香りが特徴のスイセン。益田市鎌手地区にある「唐音水仙公園」には、例年12月の終わりから2月にかけて白いスイセンが一面に広がります。日本海を背に広がるスイセンの丘の景色は圧巻で、写真を撮りに訪れる人もたくさんおられます。この公園のスイセンは鎌手地区の住民が何十年もの間ひとつずつ球根を植えた言わば手作りの花畑。住民の思いが詰まった絶景を見に、ぜひ訪れてみてください。



# 産直へようこそ!!

可成り産直が地域の特産品「JICA」  
島根県内の産直店舗を「紹介」します。



野菜生産部会の木村大輔部会長

県内でも有数の観光地である津和野町。そんな津和野町の道の駅にある産直「新鮮市場あおの」は、里山と「山陰の小京都」の食文化を支える山の幸が勢ぞろいし、観光客や地元の人々で賑わう。

今年の3月にリニューアルされた売り場に並ぶのは、全て津和野産の新鮮な農産物と加工品。冷蔵・冷凍設備を新たに設置し、これまで以上に多彩な商品を扱えるようになった。約140人の野菜生産部会員から出荷される商品の中には、他の産直では見かけない珍しいものもあるという。当日も津和野産サトウキビが陳列されていて、取材班も驚いた。生産部会の木村大輔部会長は「県外からのイターン就農者による新しい



ガーリックオイルや冬瓜ジャムなど加工品も津和野産



冬が旬(!?)の津和野産サトウキビ!

も、研修を終えた新規就農者が同産直へ出荷し、産直が賑わうことを心待ちにしている。1月にはイチゴや葉ワサビといった冬の農産物が並ぶ。また、農産物が少なくなる冬の時期でも、道の駅近くの加工所を活用して加工品を充実させるなど、1年を通して訪れる人々にとって魅力的な産直となるよう創意工夫を凝らす。

道の駅津和野温泉なごみの里には、同産直のほか、日帰り温泉やレストランが併設されており、津和野の新たな魅力を発見できる。津和野を訪れた際にはぜひ立ち寄りたい。



小京都の冬を代表する味覚のひとつ 葉ワサビ



陳列箱で津和野の観光名所を紹介さすが観光地の産直です



店名：新鮮市場 あおの  
所在地：島根県鹿足郡津和野町鷺原イ256  
(道の駅 津和野温泉なごみの里 内)  
TEL：0856-72-4122  
営業時間：9:00~21:00  
定休日：年中無休

雲南

## 雲南女性部大東支部 男の料理教室開催

J Aしまね雲南女性部大東支部は11月30日、雲南市大東町の佐世地区振興協議会の生涯学習部と共催で「男の料理教室」を同町の佐世交流センターで初めて開催しました。

参加者の募集は協議会が行い、32歳から72歳までの8人が集まりました。女性部は講師として参加。見事な包丁さばきを見せる参加者もあれば、日頃から調味料を目分量で加えている人は計量に四苦八苦するなど和気あいあいと進め、家の光協会が発行する『家の光』に掲載された「牛肉入りキムチごはん」「ハクサイのぐつぐつ煮」「カリフラワーの和風ポタージュ」の3品を作り上げました。家庭菜園で無農薬の野菜を作ることもある吉木文雄さんは「普段から簡単なみそ汁などは作っているが、今度は自家製の野菜を使って家族に振舞いたくなった」と笑顔で講座を振り返りました。

大東支部の高橋美佐子部長は「女性部のことを地区の男性に知ってもらえるいい機会になった」と話し、今後は他の地区にある活動団体とも協力して、女性部活動の輪の更なる拡大に意欲を見せます。



料理の手ほどきをする女性部員

くにびき

## 防犯訓練実施！ 職員が防犯の意識高める

くにびき地区本部は12月6日、乃木支店で、松江警察署の協力のもと防犯訓練を実施しました。

同訓練は犯罪が増える年末に向け、防犯マニュアルや役割分担などの再確認と意識の高揚を図り、犯罪の未然防止や早期解決につなげることを目的に実施するものです。

当日は、店内に2人組の強盗が入ったという想定で訓練を開始。強盗に扮した警察官が来店者役の職員を人質にとり、本物さながらに金を出すように脅迫。職員はマニュアルに従い、非常通報装置を押したり、人質の救護をしたりするなど、緊張しながらも適切な対応をとりました。また、聞き込み役の警察官に、逃走した犯人の容姿や車両ナンバーなど、早期解決に向けた情報を伝えました。

訓練終了後、同警察署の生活安全課岡田仁係長は「何よりも命を守ることが重要。そのうえで、それぞれの役割を再度確認してほしい」と注意喚起し、春木透支店長は「職員全体で防犯意識を高めていきたい」と話しました。



早期解決に向け、情報を伝える職員

隠岐

## ご来店感謝デーを実施

J Aしまねの全支店で12月13日（金）、日頃のご愛顧に対する感謝の意をこめて「ご来店感謝デー」を実施しました。隠岐地区本部では管内4か所の各支店・店の窓口において実施し、多くの組合員、J A利用者へご来店いただくため、店頭での看板告知やイベント開催予告チラシ配布を行い、当日には約300名のお客様にご来店いただきました。ご来店いただいたお客様には、「年末に必要なお掃除用品や日用品の詰め合わせ」をプレゼントさせていただきました。ご来店された組合員からは「えっ、こんな物もらっているの！今日来てラッキーだわ」など喜んでいただきました。

また、「J Aでホッと一息」をコンセプトに店舗内にコーヒーやお茶を楽しんでいただけるコーナーを設け、J Aと組合員とのコミュニケーションの場を設けさせていただきました。

J Aしまねは、今後とも組合員・利用者の皆様の期待に応えられるよう、一層取り組んで参りますので、引き続きのご愛顧をよろしく願います。



やすぎ

## やすぎ苺 出荷本格化

島根県最大の苺産地である安来市で11月15日、今年度の共選出荷が始まり、これから出荷が本格化してきます。今の時期に出荷される苺は開花から40日以上かけており、手間ひまをかけた分糖度が増すためとても甘く、市場でも好評です。

やすぎ苺部会は、63戸の農家が584アールで栽培しており、U・Iターンの若手新規就農者からベテランまで幅広い層の農家で構成されています。出荷は来年5月末頃まで予定しており、島根と鳥取の5市場へ「紅ほっぺ」84.5トン「章姫」36.2トン「かおりの」12.1トン約1億5,900万円の販売を目標としています。

同地区本部の苺担当の黒田真一係長は「安来の苺は冬から春まで長期間にわたり出荷をしておりますので、ぜひ味わっていただきたいです」と話しました。



斐川

## あぐり探検隊 「餅つき」「そば打ち」体験

12月8日、斐川地区本部料理教室「ひかわアグリキッチンふぁみーゆ」で、今年最後の農業体験活動「あぐり探検隊」を開きました。隊員とその保護者15名が参加し「餅つき」と「そば打ち」体験をしました。「餅つき」で使用したもち米は、今年5月に隊員自ら田植えをし、刈り取ったもち米を使用しました。事務局と女性部が手ほだきをし、約20キロを昔ながらの臼と杵を使って挑戦し、隊員たちは力いっぱい杵を振り下ろして餅をつきました。また、斐川産のそば粉（出雲の舞）を使用した「そば打ち」では、荘原地区の糸賀充氏と高橋義孝氏の指導の下、隊員たちは真剣な眼差しでポイントを学びました。担当職員は「この活動を通して子供たちが少しでも農業に関心を持ってくれると嬉しい」と話しました。隊員たちは全講座を修了し、食べ物の大切さ、農業の大変さを学びました。



隠岐  
どうぜん

## 来店感謝デー開催

師走の年金支給日12月13日（金）に毎年恒例となった来店感謝デーを実施しました。

当地区本部3支店の統一粗品として、JA海士町農産加工場で海士町産もち米を使用して製造した「紅白餅」を日頃の感謝を込めて来店者にプレゼントしました。また西ノ島支店では、この時期利用者の要望と評判の高い「石焼き芋」を早朝から準備し、そしてグリーンストア（西ノ島）では歳末商品と直売野菜などの「割引歳末大売出し」を同日開催し、多くの方に来店いただきました。



石見銀山

## 農業用廃プラスチック回収

石見銀山地区本部が参画する大田市環境にやさしい農業推進協議会農業用廃プラスチック適正処理部会は12月2日と3日に大田市内の4会場で農業用廃プラスチックの回収を行いました。

3日の回収会場となった大田市久手町の刺鹿米倉庫では、53名の組合員・利用者が、ビニールや育苗箱、農業用マルチの回収を委託し、2日間で約14トンを回収しました。

今後もJA石見銀山地区本部では、関係機関と連携し、廃プラスチックの回収を通して、環境に配慮した農業の推進に取り組みます。



持ち込まれた廃プラスチックの計量を行う職員

出雲

## 女性部・やすらぎ会が古着贈呈 JA役職員にも呼びかけ2,337枚

JAしまね出雲女性部と同やすらぎ会が、「古着Tシャツで地域貢献活動」で集めたTシャツを出雲市の高齢者福祉施設「みどりの郷」4施設と就労継続支援事業所「ぼてとはうす」へ寄贈しました。ウエス（汚れを拭く布）として介護に役立ててもらおうと企画したもので、部員、会員のほかJA役職員にも呼びかけ、7～10月にかけて2,337枚を集めました。

12月13日に贈呈式を行い、同女性部の高野智子部長、同やすらぎ会の片伊勢妙子会長が「みどりの郷 出雲」の中尾忠正施設長にTシャツ700枚を贈りました。高野部長は「現場でウエスをよく使われると聞いて企画しました。今後ものようなことでお役に立てるか情報収集し、地域貢献に努めたいと思います」と話しました。



高野部長（中央）と片伊勢会長（右）から中尾施設長（左）に贈呈



西いわみ

## 就農相談バスツアー 生産現場を見学

島根県主催の就農相談バスツアーが12月7日～8日にかけてあり、県外からの参加者が県内各地の生産者や生産法人、農林大学校などを巡り、経営や作業内容などを見学しました。

同ツアーには関東方面などから17名が参加。一行は県東部の出雲空港に降り立ち、初日は出雲市の生産者、大田市の県立農林大学校を訪ねました。

最終日は県西部の江津市、浜田市と益田市で法人や生産者を訪ねました。

益田市喜阿弥町の国営西部農地開発地でぶどう栽培面積110アールを手掛ける森原孝さん（44）のハウスを訪ねた一行は、森原さんに就農動機や経営規模、就農開始からの苦労や課題などを質問しました。

森原さんは、5年前の就農時に国や県、JAなどの支援事業が役に立ったと答え、参加者に就農時の作物選定にはブドウを選んでほしいと話しました。



本店

## シンガポールで西条柿をPR 販路拡大を目指す

JAしまねと島根県は今シーズン、新規輸出先となるシンガポールのドン・キホーテ（現地店舗名：DON DON DONKI）で島根県産柿「西条」を販売しました。台湾や香港といった東アジアへはこれまで輸出していましたが、シンガポールへの輸出は初めてとなります。果物消費が高いアジアで販売し、更なる販路拡大を目指します。

販売したのはシンガポールの5店舗と今年新たに開店した香港の店舗。11月にはJA職員らが現地です「西条柿」「島根あんぽ」「干し柿」を販売PR。現地の人は「西条」の形と黄色の色味が珍しい様子でしたが、試食すると「甘くておいしい」と好評でした。現地のバイヤーからは「生果を来年は倍ぐらい取り扱いたい」と要望があり、対応した職員も「実際に販促して売れ行きや現地の人々の反応もよかった」と手ごたえを得ました。今後は6月のデラウェアやシャインマスカットから西条柿の取扱いへとつながるよう交渉を進めていきます。



島根産西条柿のおいしさをPRした  
(写真はシンガポールの店舗)

島根  
おおち

## 地元の味覚を全国へ「味の絆」

島根おおち地区本部では、毎年お歳暮時期に合わせて、管内の農畜産物と加工品を贈答用品として取り扱う『味の絆』の発送を行っています。



この「味の絆」は、管内農畜産物の質の向上を目指すとともに、地元の味覚を全国に味わってもらおうと行なっているもので、北海道から沖縄まで、全国各地に発送しています。取扱う商品は、人気の石見和牛肉のすき焼きセットや管内の加工場で製造したきなつき餅の他、島根おおち地区本部で振興に取り組む特別栽培米「石見高原ハーブ米こしひかり」、「石見高原ハーブ米きぬむすめ」また、石見高原ハーブ米コシヒカリを原料とした純米酒「<sup>ゆうが</sup>邑華」など15種の商品を取扱っています。



今後もより多くの方々にふるさとの旬の味をお届けできるよう、販売数増加を目指し取組みを行ってまいります。

今年度の取扱いは、12月20日（金）の発送をもって終了となりました。

いわみ  
中央

## 米袋でオロチ作り！

いわみ中央女性部金城波佐支部（佐々岡寿美枝部長）は11月3日の波佐文化祭で、神楽に登場するオロチを米袋で作成展示しました。

波佐支部ではこれまでも米袋でウエディングドレスとタキシードなどを作っており、今回は4作品目となります。今回オロチを制作するにあたり、特に頭（かしら）の部分に一番苦労しました。オロチの神楽面を借りるなど試行錯誤の中、製作期間およそ2か月の大作が完成しました。目と口は光るような仕掛けになっており、オロチを見た人は本物さながらの出来栄えに感動していました。

今後は浜田市金城町波佐地区内の「小波の郷」にて常設展示される予定となっています。



# 新年のごあいさつ



新年明けましておめでとうございます。  
組合員の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこと  
と、心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、相次ぐ自然災害の発生や海外経済の減速など先行きの不透明感が増した一方、新たな令和の時代の幕開けとなり未来への希望も感じられる一年となりました。

隠岐地区本部では、JAしまねの自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3本柱を重点課題として各事業に取り組んで参りました。営農関係では、農業振興支援資金を活用した子牛増頭対策、肥料・農薬・飼料の海上輸送費を含めた価格低減対策、「島の香り隠岐藻塩米」の首都圏等への販売促進活動の他、担い手支援対策に取り組みました。また、地域活性化対策として、業績還元を利用した令和元年産米集荷対策助成の実施と地域活動に積極的に取り組んで参りました。

さて、本年はJAしまねが昨年策定しました「第二次中期経営計画」と「第二次農業戦略実践三か年計画」を組合員の皆様に目に見える形で着実に実行し、自己改革と事業改革を両輪として位置づけ、スピード感を持って取り組んでいかなければなりません。

JAを取り巻く環境は、日銀のマイナス金利政策や少子高齢化などにより、信用・共済事業の収益減少が避けられない状況にあります。このため、収支構造の迅速で抜本的な改革を実施する必要に迫られております。

隠岐地区本部においても、信用事業のスリム化、効率化について地域の生活基盤としての役割、利便性を確保しつつ、採算性や効率性を十分に検討し事業の見直しについて進めて参ります。また、経済事業改革につきましても、営農経済事業の収支改善を重要課題として施設の集約や広域利用を含めた事業改革を進めて参ります。

日米貿易協定が今年1月1日に発効しました。今後、環太平洋経済連携協定（TPP）、二国間や複数間でのEPA（経済連携協定）やFTA（自由貿易協定）等により日本農業はかつてない自由化時代に入り、農業・JAグループに突きつけられる課題は、一言で表現できないほど厳しいものになってくると想定されます。

大変厳しい経営環境の中ではありますが、自主自立の協同組合組織として、JAしまねの基本理念「人と自然が共生する、光り輝く未来の創造」にもとづき、地域の農業・農村を守るとともに、組合員や地域住民の皆さまに信頼され、お役に立てるJAとして、農業の振興ならびに地域社会の発展に貢献できるよう役職員一人ひとりが課題意識を持って事業改革を進め、この変革の時を乗り越えて行きたいと考えております。何卒、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

組合員・地域の皆様にとって本年が幸多い一年でありますよう、心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくようお願い申し上げます。

島根県農業協同組合 隠岐地区本部  
常務理事本部長 佐々木 賢治

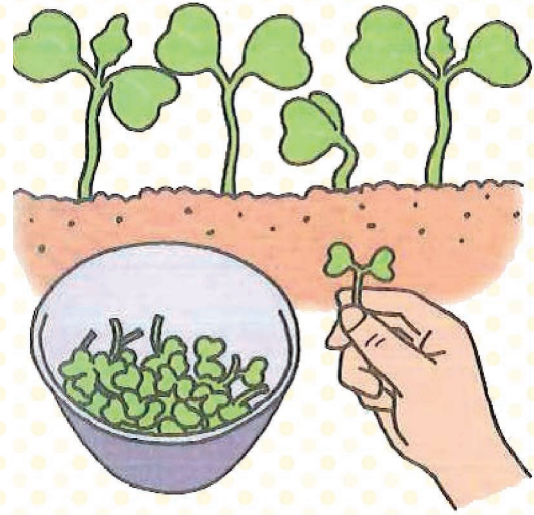
## 種子の管理と残った種の利用法

種子を購入したが、すぐに播種できないときまたは種子を余ったときにどう処理をすれば良いか。

種子の保存には、暗くて涼しいところがベストです。例えば、密閉容器に入れ冷蔵庫に入れます。この時、乾燥剤を入れておくと湿度から守られ長期間の保存が可能となります。

ただし、種子は生きていますので開封したらできるだけ早く使いきるように心がけてください。

次に、余った種子について葉もの野菜やダイコンなどの葉も食べられる根菜類は、プランターや庭の片隅などに播種を10日程度で収穫ができるので、つまみ菜などで楽しむことができます。



## 令和2年 営農座談会開催日程表

開催日	開催時間	会場	参集範囲	
2月10日(月)	9:30 ~ 11:00	蔵見集会所	蔵見・雨来	
		東郷集会所	東郷・飯田・津井	
	13:30 ~ 15:00	JFしまね加茂出張所	加茂・箕浦	
		中老人福祉センター	上元屋・下元屋・浜田・森・郡・湊・上・布施・卯敷・飯美	
		有木集会所	有木・城北町・池田	
		西村集会所	西村・松ヶ浦・伊後	
2月12日(水)	9:30 ~ 11:00	犬来集会所	犬来・大久・釜	
		皆市集会所	皆市	
	13:30 ~ 15:00	下西集会所	下西・西田・平	
		都万目集会所	都万目	
		15:30 ~ 17:00	原田中央集会所	原田
			勝山会館	近石・真杉
2月13日(木)	9:30 ~ 11:00	旧那久小学校	浜那久・上那久・油井・蔵田	
		山田地区生活改善センター	郡・山田	
	13:30 ~ 15:00	上地区集会所	上里・向山・森里・砂子谷	
		小路地区集会所	那久路・小路	
	15:30 ~ 17:00	中里集会所	中里・西里・釜屋・蛸木・津戸・歌木	
		役場五箇支所合庁舎(旧中央公民館)	北方・南方・代・苗代田・福浦・長尾田	
2月14日(金)	9:30 ~ 11:00	久見地区農村集落多目的共同利用施設	久見・向ヶ丘	
		今津集会所	今津・岸浜・岬	

※都合により会場を一部変更する場合がございます

営農情報

令和元年産上質米集荷対策助成金のお支払いについて

1. 概要

J Aしまねが取り組む高品質米への取り組み促進の一環として、隠岐地区本部へ出荷された令和元年産米に対し助成金を支払います。

2. 具体的内容

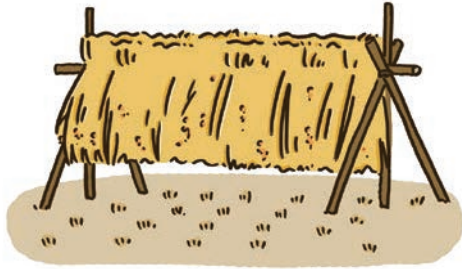
令和元年11月30日までに隠岐地区本部が実施する米集荷へ出荷された令和元年産米（加工用米を除く）に対し、上質米（1・90mm以上ふるい目出荷米）30kgあたり150円を助成いたします。また、上質米以外（1・90mm未満ふるい目出荷米）には30kgあたり50円の奨励金を支払います。

3. 助成金支払日

令和元年12月25日（水）

4. 助成実績

助成金区分	助成対象人数	助成対象袋数 (1袋30kg)	助成金単価 (30kg当り)	助成金総額
上質米 (1.90mm以上米)	135人	13,203袋	150円	1,980,450円
上質米以外 (1.90mm未満米)	6人	453袋	50円	22,650円
合計		13,656袋		2,003,100円



（報告／企画総務課）

令和元年産島根米にかかる追加金のお支払いについて

1. 概要

令和元年産島根米に対する追加金をお支払いします。

2. 追加金支払日

令和元年12月25日（水）

2. 追加金明細（令和元年産）

区分	対象数量 (1袋30kg入り)	単価 (30kg当り)	追加金総額
J Aうるち	8,959袋	200円	1,791,543円
一般うるち	97袋	100円	9,700円
五百万石	708袋	200円	141,600円
神の舞	57袋	150円	8,550円
山田錦	216袋	300円	64,800円
もち	35袋	350円	12,250円
合計	10,072袋		2,028,443円

（報告／経済課）

平成30年産共同計算米にかかる最終精算金のお支払いについて

1. 概要

平成30年産島根米については、一旦共同計算による運営を実施し、令和元年6月末において販売残数を共同計算からJ Aが買い取りを行う「集荷後価格決定方式」を導入しています。この度、令和元年6月末時点での販売残数についてJ Aが買い取りを実施し、最終精算金が確定したため、対象者に対し精算金をお支払いいたします。

2. 精算金支払日

令和元年12月25日（水）

3. 最終精算額（平成30年産）

対象数量 (1袋30kg入り)	精算単価（1袋当り）	精算金総額
10,679袋	166.1548円	1,774,234円

※なお、精算金の計算について、精算金対象者および出荷日ごとの対象米に対し精算単価を乗じ、1円未満の端数を除いた金額を精算金としてお支払いしています。



（報告／経済課）

歳の瀬市を開催

12月26日（木）、隠岐島文化会館の屋内ホワイエにおいて、歳の瀬市を開催しました。  
歳の瀬市は、島内農産物生産者を中心に組織されている隠岐農産物生産者協議会を主体として関係機関の協力のもと毎年開催されており、生鮮野菜・農産物加工品・水産加工品・正月用品などの販売が行われました。  
当日は、販売数に限りがあることもあって、販売開始とともにお目当てのものを目掛けて多くの人が押し寄せ、大賑わいとなっていました。  
今後とも、地産地消による生産者の顔が見える安心安全な直売の機会を設け、生産者と購買者との身近なものとなるよう、歳の瀬市やお盆前に開催している夏の夕市など、引き続き開催していきたいと思えます。



（報告／経済課）

島根県農林漁業団体退職者連盟  
島後支部総会を開催



12月11日（水）、島根県農林漁業団体退職者連盟島後支部は第27回総会を開催しました。当連盟は、農林漁業団体（JA、JF、森林組合等）の退職者で組織する連盟となっており、農林漁業の振興に向けた政策要請、農林漁業団体の維持・発展に寄与することや会員の生活安定などに努めることを目的に、これまで活動を行っています。  
しかしながら、本總會において、当連盟については令和2年3月31日をもって解散することが決議され、今後解散に向けた最終的な調整が図られることとなっています。



（報告／企画総務課）

お便りコーナー

読者の皆様のご意見・ご感想をご紹介します。

先月号を読んで、ダイコンのトンネル栽培があるんですね。また、地区本部トピックの「西いわみ」のパイヤ栽培びっくりしました。島根でも出来るんですね。雲南のショウガの花も初めて見てびっくりです。  
（有木・Mさん）

先月号のクロスワードパズルをとっても楽しく解くことができました。私も駅伝を走ったので、その時を思い出しました。お正月の箱根駅伝も楽しみです。（有木・Sさん）  
昨年、いきいき祭りでお米のすくい取りにチャレンジして、藻塩米を初めて食べました。つやつや光って甘くておいしかったです。  
（下西・Kさん）

JAの人間ドックを受診しました。大型バス内で多くの検査が短時間に終え、日々の生活が大切なことを自覚しました。  
（上西・Hさん）



たくさんのお便りおまちしております。

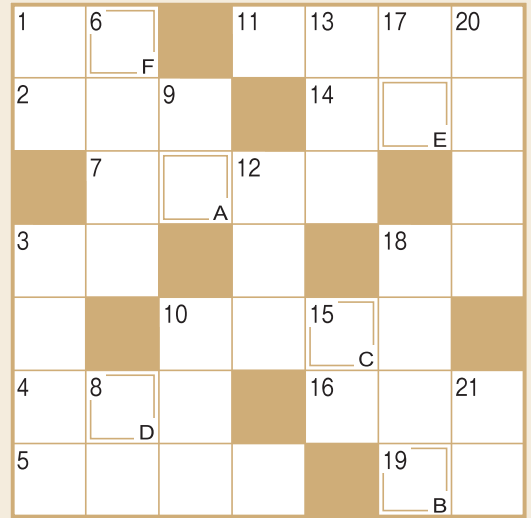
タテのカギ

- ①雲が浮かんだり星が輝いたり
- ③ 2月23日は——誕生日。国民の祝日です
- ⑥受験生が縁起を担いで食べることもある揚げ物
- ⑧人が並ぶとできます
- ⑨港——。城下——。——工場
- ⑩良いだしが出る海藻
- ⑫しばしば野党とやり合います
- ⑬2020年は——年。2月が29日まであります
- ⑮将棋の盤面に並べる物
- ⑰走り高跳びの選手が跳び越えます
- ⑱読経に合わせてポクポクたたきます
- ⑳縁、結、続に共通の部首
- ㉑XとZの間

ヨコのカギ

- ①鬼は——、福は内
- ②天井とかもいの間で作られます
- ③元素記号はFe。身近な金属です
- ④銭湯へ入るときにくぐることも
- ⑤床側に腹を向けて寝そべります。——寝
- ⑦自然の美しい風景を表す言葉、——風月
- ⑩ちらしやCMもこの一手法
- ⑪赤い花が咲く梅のこと
- ⑭√の記号で表します
- ⑯出発——になって忘れ物に気付いた
- ⑱寺院へ入るときにくぐることも
- ⑲酒を飲むと回る人もいます

二重マスの文字を A～F の順に並べてできる言葉は何でしょうか？



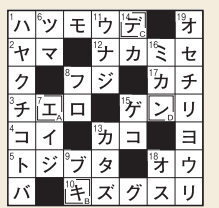
答え

A	B	C	D	E	F
---	---	---	---	---	---

応募要項

- 応募方法 ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌に関するご意見・ご感想を記入して、下記宛先にお送りください。
- 賞品 正解者の中から抽選で40名（JAしまね全体）の方に「JA商品券」をお贈りします。
- 当選者発表 賞品の発送をもってかえさせていただきます。
- 宛先・締切 〒685-0016 隠岐郡隠岐の島町城北町151  
JAしまね 隠岐地区本部「クイズ」係  
2020年2月5日（水）（当日消印有効）

先月号の答え



・お預かりした個人情報は、プレゼントの抽選・発送以外の目的で利用することはありません。



風邪の予防に乾燥対策を!

JA島根厚生連

冬は寒いだけでなく、空気中の湿度が低くなり乾燥も気になる季節です。部屋を暖めるために暖房を使用することも多いと思いますが、それによって湿度はさらに下がり、空気がより乾燥してしまいます。

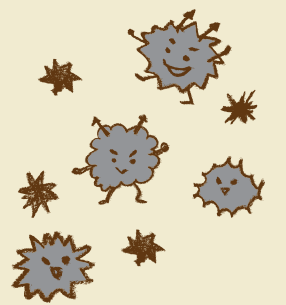
空気の乾燥は、髪や肌など美容面への影響だけでなく、口や鼻の粘膜を乾燥させ風邪やインフルエンザなどの感染に対する防御機能を低下させてしまいます。そのため、風邪にかかり、体調を崩す方も多くなります。子どもや高齢の方は抵抗力が弱く、大人に比べるとウイルスに感染しやすいです。そこで、乾燥対策をしっかり行い、風邪やインフルエンザの予防に努めることが大切になります。

生活をするうえでの適正な湿度は、40～60%と言われています。湿度が40%を下回るとインフルエンザウイルス等が浮遊しやすくなってしまいます。反対に湿度が高くなり、50%以上になるとそれらは減少すると言われています。まずは、自分の部屋の湿度がどのくらいなのかを知るためにも、湿度計を使い部屋の湿度を確認してみましょう。加湿



の方法として、加湿器の使用は有効です。また、加湿器を使う以外にもストーブの上やかんを置いたり、濡れたバスタオルや洗たく物を室内に干したりすることでも乾燥対策になります。

風邪やインフルエンザの予防には、もちろん手洗いやうがい、免疫力を上げるための食事・睡眠も効果的です。加えて今年は乾燥対策をして、より快適に、より健康に冬を過ごしてみませんか。





## かざりかまぼこ (・ばら・うさぎ)



お正月に残ったかまぼこを使い楽しい飾り切をしてみませんか。お弁当に入れたり、食卓にだしたり笑顔が増えますよ。

### ●材料

◆ばら◆	◆うさぎ◆
かまぼこ赤板…………… 1本	かまぼこ赤板…………… 1本
いんげん…………… 1本	ごま

### ●作り方

- |                                  |                        |
|----------------------------------|------------------------|
| ◆ばら◆                             | ◆うさぎ◆                  |
| ①板かまぼこを2～3cmに1枚切る。薄く2枚切る。        | ①板かまぼこを幅2cmぐらいに切る。     |
| ②厚い1枚の真ん中に切れ目を入れる。               | ②かまぼこの赤と白の境目を2/3切る。    |
| ③薄い2枚をくるくる巻き②のかまぼこの中に花になるように入れる。 | ③赤い部分をうさぎの耳になるように中に巻く。 |
| ④硬めに茹でたいんげんを斜めに切り葉に見えるように入れる。    | ④ごまで目を付ける。             |

## かす汁



ほかほか体が温まる汁物がうれしい時期ですね。鮭の粕汁は寒い冬の汁物におすすめです。酒粕と甘めの味噌でこっくりした味に仕上げ、鮭を加えてボリュームをたすレシピです。冬においしい酒粕をぜひ試してみてください。火を通すのでアルコール分はなくなっています。

### ●材料 (4人分)

塩サケ…………… 100g	青ネギ…………… 20g
大根…………… 160g	酒粕…………… 40g
人参…………… 1/3本	みそ…………… 60g
里芋…………… 80g	だし汁…………… 800cc
薄揚げ…………… 1枚	

### ●作り方

- |                      |   |
|----------------------|---|
| ①塩サケは塩抜きして1.5cm角に切る。 | ⑥野菜に火が通ったところに塩サケ、薄揚げ、溶かした酒粕を入れる。          |
| ②大根、人参は短冊切りにする。      | ⑦野菜が柔らかくなったら味噌を入れる。(塩サケの塩分がある場合は少なめてください) |
| ③里芋は1cmの輪切り。         | ⑧器に入れ小口切りの青ネギを入れる。                        |
| ④薄揚げは0.5cmの千切り。      |   |
| ⑤鍋にだし汁、野菜を入れて煮込む。    |   |

## 牡蠣とねぎのそば



とろみのついたあんかけの「牡蠣とねぎのそば」は、いつまでも温かくて体を温めてくれます。牡蠣を入れたら煮すぎないのがポイントです。(牡蠣が硬くなります)

### ●材料 (2人分)

牡蠣…………… 1パック150g	水+めんつゆ…………… 400cc
白ネギ…………… 1本	しょうゆ…………… 少々
そば…………… 2玉	片栗粉…………… 大さじ2
ゆず…………… 少々	水…………… 大さじ3
七味…………… 少々	

### ●作り方

- |                              |  |
|------------------------------|--|
| ①牡蠣は塩をふってもみ、流水の下で洗ってから水けを拭く。 | ⑥沸騰したら味をみて、しょうゆ少々を加え、白ネギが柔らかくなったら牡蠣を入れて、身がふくらとするまでさつと煮る。 |
| ②白ネギは長さ4～5cmの斜め切りにする。        | ⑦水溶き片栗粉を回し入れ、とろみをつける。                                    |
| ③ゆずは皮の部分だけ千切りにする。            | ⑧ゆでたそばに⑦をかけゆずと七味をかける。                                    |
| ④片栗粉と水を混ぜ合わせ、水溶き片栗粉を作る。      |  |
| ⑤鍋に水とめんつゆ、白ネギを入れて煮る。         |  |

### 表紙紹介

表紙のイラストは野々村 直通 (ののむらなおみち) 先生に描いていただいています。

今月の表紙は津和野町左鏡の京村牧場から見る雲海です。盆地地形の津和野では、冷え込んで晴れた風の弱い朝などの条件が揃った時に「津和野の朝霧」と呼ばれる霧が濃く発生します。映画「高津川」で主人公が営む牧場のロケ地となった京村牧場からは、眼下に広がる幻想的な雲海を見ることができます。(注:京村牧場は私有地ですので、無断の立ち入りはご遠慮ください)

### 【今月の表紙の原画】

原画の全体は次のとおりです。

### 編集後記

年末に発表される、1年の世相を漢字一文字で表す「今年の漢字」。2019年は、新しい元号から『令』の文字が選ばれました。取材で大勢の方と出会った私の、昨年を表す漢字は『会』。今年も県内各地での出会いを大切に、充実した誌面を作ります。12月には「今年の漢字は『成』」と皆様に報告できるよう1年を過ごします。(和)